

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	アストラポルテ FC筑西		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日 ～ 2026年2月28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年2月1日 ～ 2026年2月28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画・記録・モニタリングの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービス計画の作成・共有・計画に沿った支援が全員7/7で実施されている。 日々の記録、モニタリング、計画の見直しも全員が徹底している。 朝の打合せも全員が実施しており、チームとして一貫した支援を提供できている。 5領域に沿ったプログラムで活動するなど、支援内容の質向上にも取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援終了後の振り返りが当日にできていないケースが一部残る(翌日対応で補充)。 業務フローを見直し、週次でまとめて振り返る時間の確保など工夫を継続する。 計画と実践のPDCAサイクルをより可視化し、職員全体で共有できる仕組みを整える。
2	保護者対応・説明体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 運営規程・計画説明・同意取得・相談対応がほぼ全員で実施されている。 毎月の通信発行やHP・SNS・アプリを活用した情報発信も全員が実施。 送迎時や定期面談を通じた保護者との日常的な情報共有が徹底されている。 親子サッカーや親子参加型イベントを定期開催し、保護者同士の交流機会も設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族支援プログラムや研修会の案内について、参加しやすい日程・方法を工夫し、情報公開の機会をさらに増やしていく。 障害のある子どもや保護者への意思疎通・情報伝達の配慮を組織的に整備し、個人差なく対応できる体制を強化する。
3	安全管理・緊急時対応の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 事故防止・BCP・安全計画など安全管理に関する全項目を全員で実施。 定期的な避難訓練・ヒヤリハット共有・再発防止策の検討も全員で徹底している。 虐待防止研修・身体拘束に関する手続きも全員が把握・実施しており、安全文化が根付いている。 アプリ・HP・SNSを活用したマニュアル・訓練情報の保護者への周知に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギー対応について医師の指示書に基づく対応が一部未徹底。 保護者・医療機関との書類整備と連携強化を優先的に進める。 マニュアルの定期見直しと職員への周知徹底を継続し、対応のばらつきをなくす。 訓練の実施状況をアプリ等で保護者へ積極的に発信し、周知の徹底を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・地域開放の著しい不足 <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブや児童館との交流がほとんどできていない。 地域住民を招いた行事もいいえが多数で、地域に開かれた運営が実現できていない。 (自立支援)協議会等への参加も一部未実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域との接点を持つ機会が少なく、他施設や地域団体との交流機会を設ける時間的余裕がない。 地域イベントへの参加ハードルが高く、積極的に関与する体制が整っていない。 施設内での活動が中心になりがちで、地域資源を十分に活用できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の放課後児童クラブや学校との情報交換から始め、年1回程度の合同活動を目指す。 地域の公園や商店街など日常の場での活動を定期的に取り入れる。 見学会や地域向け通信の配布などで事業所を知ってもらう機会をつくる。
2	施設のバリアフリー・構造化環境の課題 <ul style="list-style-type: none"> Q3(構造化環境・バリアフリー化)で複数名がいいえ。 「階段が急」「バリアフリー化されていない」との意見が複数あり、障害特性への物理的配慮という点で支援の質に直結する問題。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存建物の作りがバリアフリー化されていないため、根本的な改修が困難。 構造化の制約により、短期間での環境整備が難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 手すりの増設・コンセントカバー設置・スロープ活用など、できる範囲での安全対策を年度計画に落とし込み段階的に実施する。 現状の制約と代替措置(移動サポート等)を保護者に丁寧に説明し、信頼を維持する。
3	第三者評価・外部評価の未実施 <ul style="list-style-type: none"> Q9(第三者による外部評価)でいいえ・わからないが複数。 内部だけの評価では客観性が担保しにくく、保護者や地域への説明責任という観点でも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価の実施体制・費用・手順が整理されておらず、年度計画に組み込まれていない。 職員の中に第三者評価の意義や方法についての理解が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価の実施要件・費用・手順を管理者が把握し、次年度の計画に組み込む。 外部評価が難しい場合でも、他事業所との相互訪問や自治体の評価支援制度の活用を検討する。